

作成日	令和8年4月1日	作成機関	△△△相談支援事業所	作成者	×××
第1希望	○○○	第2希望	■■■	第3希望	◇◇◇

①利用者の情報

フリガナ	キシワダ ハナコ	生年月日	昭和△年◇月○日	連絡先	TEL 072 - 447 - 6078	
氏名	岸和田 花子	性別	女		年齢	● 歳
住所	岸和田市○○町××-××				FAX 072 - 431 - 0580	
手帳	身体：1・2・3・4・5・6 / 部位： (有) (無) 知的：(A) B1・B2 精神：1・2・3				E-mail abcde@fgh.ijk.jp	
障害福祉関係サービスの利用	(有) (無)				家族構成 KEY 高血圧、85歳、 要介護2 東京在住 59歳 岸和田在住	
障害支援区分	(1・2・3・4・5) (6) なし					
(種類)	身体介護・家事援助・通院等介助・通院等乗降介助・重度訪問介護・同行援護 行動援護・短期入所・生活介護・就労移行支援・就労継続支援(A型・B型) 自立訓練(機能・生活・宿泊型)・共同生活援助・施設入所支援・療養介護 就労定着支援・自立生活援助・計画相談・地域移行支援・地域定着支援 移動支援・日中一時支援					
収入・年金(障害 基礎 厚生・その他： 級) ・その他()	緊急連絡先(優先順) 氏名 本人との関係と居住地 連絡先 ① ○○桃子 妹・岸和田 ○○○-○○○○ ② 岸和田太郎 兄・東京 090-○○○○-○○○○ ③ △△次郎 民生委員・岸和田 ○○○-×××× ④ ○○桃夫 妹夫・岸和田 080-○○○○-××××					
疾病：診断名 てんかん 自立支援医療(有) (無)：(精神)・育成・更生	通院先 医療機関名：○△病院(脳神経外科) 主治医：●●Dr. 通院頻度：1回/3か月 服薬(有) (無)頻度：2回/1日 /頓服(有) (無)使用上限： /管理方法(自己・家族) 訪問看護					

②緊急時に想定される相談内容

相談内容	対応
母が倒れた。本人ひとりで生活できないので、短期入所を利用したい。(妹から連絡が入る)	あらかじめ、母が入院となれば市内に住む妹が短期入所先へ送り届けてくれることになっているため、必要な持ち物を案内し、到着を待つ。
本人より、母が倒れたと連絡が入る。(妹に連絡が繋がらないときなど)	救急要請を行い、妹へ連絡し、妹に短期入所先まで送り届けてもらうよう依頼。必要な持ち物を案内し、到着を待つ。
てんかん発作が5分以上続く、意識が回復しないまま発作が繰り返されている。(母から連絡が入る)	救急要請を促す。母が混乱している場合は、代わりに救急要請を行う。

③支援経過・現状と課題等

母の支援者から相談があり、日中の通所を希望して令和2年7月から計画相談、生活介護を利用。家事全般と自宅での本人の身の回りの世話は母が担っている。本人は単語のみでの会話は可能。日中は週3日生活介護に通い、その他の日は母と一緒に買い物に出かけたり、自宅で好きなテレビを見て過ごしている。妹が数か月に一度、様子を見に来てくれているが、母が高齢であることや本人の自立のために短期入所やグループホーム入居をすすめているが、母ができる限り自分で面倒をみたいとの意向である。母が入院や体調不良などの緊急時となった場合、本人ひとりでは生活困難であることが今後の課題である。

④緊急短期入所先までの移動手段

□平日・日中：（緊急時の受入・対応の対象ではありませんが想定してください。）
市内に住む妹（〇〇桃子氏）が自宅へかけつけ、送り届ける。

□休日・夜間：
まず、妹に電話し、妹が対応できない場合は近くの民生委員に協力を依頼。自宅を訪問し、タクシーを呼んでもらい、短期入所先まで行く。行き先を伝えてもらえれば、ひとりで落ち着いてタクシーに乗ることができる。 ※あらかじめタクシー代の用意を確認しておく。

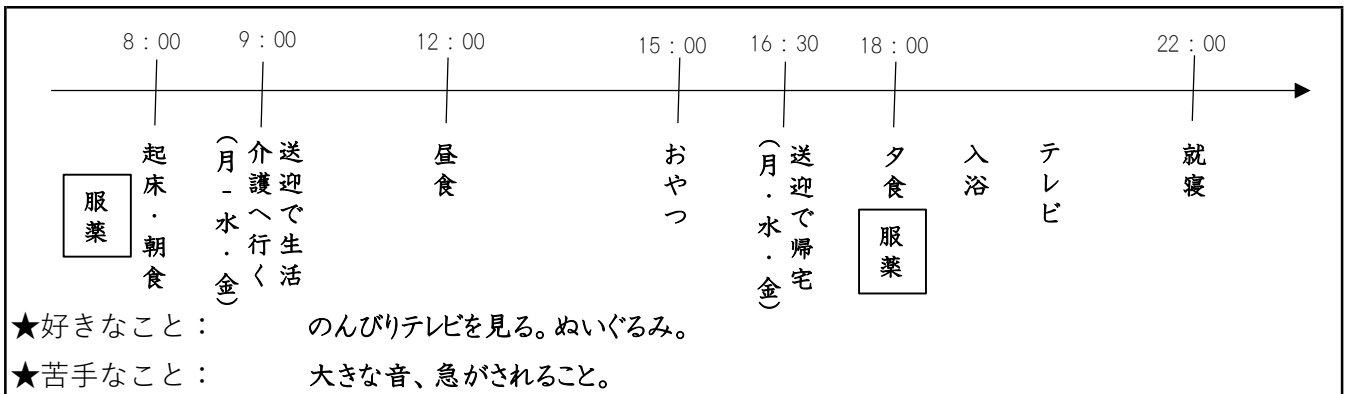
⑤サービス利用状況

	事業所名	種類	担当者	連絡先
(1)	▲▲生活介護	生活介護	△△△	〇〇〇-〇〇〇〇
(2)	△△△相談支援事業所	計画相談	×××	〇〇〇-××××
(3)				
(4)				
(5)				

⑥ADL

- ・移動（歩行・車いす・バギー・歩行器・その他）
- ・食事（自立・一部介助・全介助） 食事形態・留意事項等（固いものは細かくする）
- ・入浴（自立・一部介助・全介助）
- ・排泄（自立・一部介助・全介助・定期排便）
- ・金銭管理（自立・一部介助・全介助 管理者）
- ・日常の意思決定（自立・一部介助・不可）
- ・行動障害（有・無） ※有の場合、具体的な内容や対応方法を以下に記載
()

⑦普段の生活（起床・昼食・就寝などを時間軸で記載してください）



⑧その他配慮してほしいことや近況状況など

生活介護は安定して通所できている。短期入所やグループホームの体験利用をすすめているが、母は前向きではない。母は近々白内障の手術を予定しており、サービス未利用のため、地域包括支援センター職員が月に1回程度訪問している。